



# 令和4年度 業務実績レポート

業務実績の詳細は、令和4年度業務実績等報告書をご覧ください。  
([http://www.famic.go.jp/public\\_information/tsusoku/houkoku/](http://www.famic.go.jp/public_information/tsusoku/houkoku/))

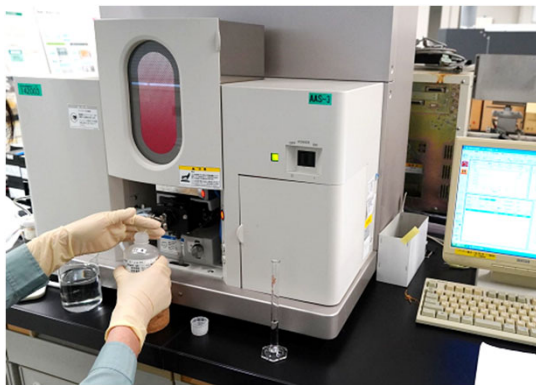
- 1 肥料及び土壌改良資材関係業務
- 2 農薬関係業務
- 3 飼料及び飼料添加物関係業務
- 4 食品表示の監視に関する業務
- 5 日本農林規格、農林水産物及び食品の輸出促進等に関する業務
- 6 食品の安全性に関するリスク管理に資するための有害物質の分析業務
- 7 その他の業務



# 1 肥料及び土壌改良資材関係業務

業務名		実績
農林水産省からの緊急要請業務		1
登録関係業務	肥料の登録申請に係る調査及び農林水産大臣への結果の報告件数	693
	肥料の原料・生産工程の変更に係る相談への対応件数	1,317
肥料の立入検査等業務	立入検査件数	223
	うち要指導として技術的助言を実施	29
	収去品の分析点数	144
土壌改良資材の立入検査業務	立入検査件数	26
	うち要指導として技術的助言を実施	5
	集取品の分析点数	16
牛海綿状脳症の発生防止関係業務	大臣確認検査件数（※1）	5
	センター確認検査件数（※2）	38
肥料の安全性及び品質の確保に関する支援業務	地方農政局等に対する登録更新業務及び検査業務に係る技術的支援	ブロック会議での説明及び地方農政局職員対象のOJTを実施
	原料管理制度について周知を行った事業場数	223
	仮登録（※3）申請に係る調査件数	農林水産大臣からの指示なし
	仮登録申請に係る肥効試験件数	農林水産大臣からの指示なし
	事業者からの公定規格改正の申出に係る対応件数	事業者からの申出なし
	汚泥肥料中の放射性セシウム測定件数	26
	家畜ふんを原料として使用している汚泥肥料等のクロピラリド測定件数	19
	クロピラリドに係る取組の周知件数	22
肥料の外部精度管理試験を実施する肥料生産業者及び都道府県肥料検査指導機関及び分析機関に対する技術的助言等	農林水産省からの要請に応じ、技術的助言等を実施	
調査研究業務		9 課題

- ※1 大臣確認検査：牛の部位を原料とする肉骨粉等について、農林水産大臣からの指示に基づき牛脊柱等が混入しない工程で製造していること等を確認する検査。
- ※2 センター確認検査：肥料原料用の豚、家きん等に由来する肉骨粉等について、農林水産省が示す製造基準に適合していることを確認する検査。
- ※3 仮登録：公定規格に定めのない普通肥料の生産又は輸入に際しては、銘柄毎に農林水産大臣の仮登録を受けなければならない。



原子吸光による肥料成分の測定



圃場における汚泥肥料連用試験

## 令和4年度調査研究発表課題概要

### ○ 硝酸性窒素分析での抽出操作における一般的な機器への適用の確認

特殊な装置を使用するフェノール硫酸法を用いた硝酸性窒素分析における抽出操作について、簡便化を検討しました。固形肥料に対しては一般的な振り混ぜ機を適用し、液状肥料に対してはスケールダウンした方法を適用して試薬量を削減しました。また、この分析法の妥当性について確認しました。





## 2 農薬関係業務

業務名		実績	
農林水産省からの緊急要請業務		要請なし	
農薬の登録及び再評価に係る業務	基準値設定必要農薬	農林水産大臣からの審査指示件数（※4） 農林水産大臣への年度内報告件数	415 72
	基準値設定不要農薬	農林水産大臣からの審査指示件数（※4） 農林水産大臣への年度内報告件数	1,127 757
	再評価	農林水産大臣からの審査指示件数	784
	農薬GLP（※5）制度に基づく調査を実施した試験施設数	24	
	特定試験成績の信頼性の確保に関する業務	OECDによるGLP調査当局に対する現地評価対応	第37回OECD GLP作業部会で承認。農水3GLP適合試験施設の試験成績は国際的な信頼性が確保された。
農薬の立入検査等業務	立入検査件数	48	
	集取品の分析点数	6	
農薬の登録審査に付帯する業務	農薬の安全性その他の品質に関する科学的知見の収集及び解析	科学的知見を収集、農林水産省に提供	
	農薬の登録制度等に係る国際会議への参加等（農薬行政の国際調和への貢献）	OECDガイダンス文書の草案検討結果を農林水産省に提出 OECD生物農薬専門家会合及びFAO/WHO合同残留農薬専門家会議に参加	
	農薬使用でへい死した可能性のある蜜蜂に含まれる農薬の定量	14 件結果報告	
	生物農薬の審査の更なる充実に向けた検討	農薬対策室に技術的知見を提供	
	再評価の開始に向けた申請者からの事前相談への対応	農林水産省と連携して事業者に対応、審査ガイダンス作成及び改訂	
農産物中に係る農薬の使用状況及び残留状況調査業務	残留農薬分析点数	469	
	(内訳) 野菜・果実類	379	
	(内訳) 米穀	60	
	(内訳) 茶	30	
調査研究業務		7 課題	

※4 農林水産大臣からの審査指示件数：前年度から審査を継続し、令和4年4月1日時点での審査未了農薬を含む。

※5 GLP（Good Laboratory Practice）：優良試験所規範



OECDによるGLP調査当局に対する現地評価

### 令和4年度調査研究発表課題概要

#### ○ 茶の残留農薬一斉試験法の妥当性評価

厚生労働省通知の残留農薬一斉試験法は、茶の分析においてカフェイン等のきょう雑成分の精製が不十分なため、精製工程の改良等を行い、分析機器の汚染の低減及び分析対象農薬の拡大を図りました。また、改良した一斉試験法の妥当性を評価しました。



### 3 飼料及び飼料添加物関係業務

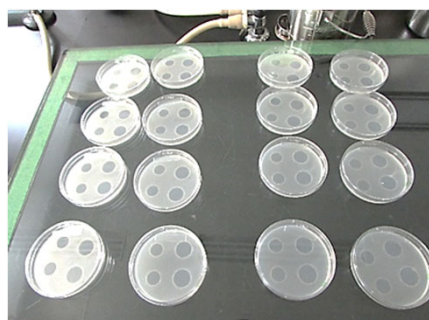
業務名		実績	
農林水産省からの緊急要請業務		1	
飼料等の立入検査等業務	立入検査件数	304	
	収去品の分析点数	292	
	要指導として技術的助言を実施	1	
愛玩動物用飼料（ペットフード）の立入検査業務	立入検査件数	65	
	集取品の分析点数	107	
	要指導として技術的助言を実施	0	
牛海綿状脳症の発生防止関係業務	大臣確認検査件数（※6）	97	
	センター確認検査件数（※7）	33	
安全性確保に関する検査等業務	基準・規格等の妥当性調査件数	5	
	薬剤耐性菌発現モニタリング調査件数	2	
	飼料等のモニタリング検査点数	794	
	(内訳) 飼料中の飼料添加物	17	
	(内訳) 有害物質	478	
	(内訳) 病原微生物	93	
	(内訳) 肉骨粉等	204	
(内訳) 遺伝子組換え体	2		
ISO/IEC 17025認定の維持		ISO/IEC 17025(2017)認定を維持	
検定等関係業務	飼料添加物の検定件数	101	
飼料等の製造工程管理及び品質管理等に関する検査等業務	GMP適合確認検査件数	107	
	(内訳) GMPガイドラインに基づく適合確認（※8）	103	
	(内訳) 抗菌剤GMPガイドラインに基づく適合確認	4	
	特定飼料等製造業者及び規格設定飼料製造業者の調査件数	1	
	輸出証明検査件数	24	
	エコフィード認証制度及びUCオイル認証制度に係る確認検査件数	1	
	飼料製造管理者認定講習会	58 名	
	顧客満足度（※9）	4.3	
	GMPガイドラインの研修	GMPガイドラインの研修会	e-ラーニングにより開催(841名)
		顧客満足度（※9）	4.3
	メールマガジン	6 回配信	
外部精度管理を実施する飼料等製造業者等への技術的助言及び協力	200		
登録検定機関の技術的助言	2		
WOAHコラボレーティングセンター関係業務	飼料研究報告の要旨、令和3年度特定添加物検定結果の英訳		
	WOAHへ活動に関する報告書の提出		
	飼料安全に係る分析研修(web開催)		
調査研究業務		8 課題	

※6 大臣確認検査：チキンミールや魚粉等の製造工程が製造基準に適合しているかの確認検査。

※7 センター確認検査：肉骨粉等を原料とするペットフード等の製造事業場が製造基準に適合しているかの確認検査。

※8 GMPガイドラインに基づく適合確認：飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドライン（平成27年6月17日付け農林水産省消費・安全局長通知）に基づき、申請に応じて、製造管理及び品質管理の方法が適切になされているか確認する検査。

※9 顧客満足度：5段階評価の平均値。



抗生物質製剤の力価測定

#### 令和4年度調査研究発表課題概要

○ 飼料及び愛玩動物用飼料中のヒ素、カドミウム、鉛及び水銀の誘導結合プラズマ質量分析計による迅速・多元素同時分析法の開発

現在、飼料及びペットフード中の有害重金属等（ヒ素、カドミウム、鉛、水銀）は、それぞれ個別に分析する必要があります。今回、誘導結合プラズマ質量分析計を用いた新たな分析法を開発し、4つの元素を同時に測定可能なことを確認しました。



## 4 食品表示の監視に関する業務

業務名		実績	
農林水産省からの緊急命令等業務		命令なし	
食品表示法に基づく 立入検査等業務	立入検査	件数	27
		事業所数	54
		延べ回数	112
		検査で入手した試料の科学的検査件数	45
	行政部局要請調査（※10）	件数	14
		事業所数	72
		延べ回数	81
		調査で入手した試料の科学的検査件数	11
食品表示の科学的検査業務	科学的検査件数（総数）		5,822
	うち疑義が認められた件数		115
	うち原産地表示検査件数		2,643
	(内訳) 生鮮食品		1,433
	(内訳) 加工食品		1,210
	うち遺伝子組換え表示検査件数		254
	うち農林水産省と連携した検査件数		321
	(内訳) 生鮮食品		221
	(内訳) 加工食品		100
うち機動的モニタリング検査件数（※11）		69	
うち行政機関等からの要請による検査件数		236	
食品表示110番等対応業務	不適正表示や違法なJASマーク表示に関する情報を関係部局へ回付した件数		24
	食品表示110番に係る科学的検査件数		21
調査研究業務		13 課題	

※10 行政部局要請調査：農林水産省、都道府県等からの要請による任意調査等。

※11 機動的モニタリング検査：分析疑義が判明した時点で速やかに買上げ及び検査を追加実施して疑義の継続性・広域性等の確認を行う検査。



原産地表示の検査

### 令和4年度調査研究発表課題概要

#### ○ 湯通し塩蔵わかめの元素分析による原料原産地判別法の開発

従来からFAMICでは湯通し塩蔵わかめに含まれる元素の濃度により国産と中国産の原料原産地の判別を行っていますが、今般、韓国産の判別について検討を行い、原料原産地の判別法を開発しました。



### Pickup!

#### ○ 食品表示の適正化に貢献

あさりの原産地表示については、FAMICの科学的検査が端緒となり、国、県等による14事業者への不適正表示の改善指示が行われました。





## 5 日本農林規格、農林水産物及び食品の輸出促進等に関する業務

業務名		実績		
農林水産省からの緊急命令等業務		1		
JASの制定等に係る業務	JAS制定に係る原案作成件数	FAMICによる原案作成	0	
		事業者団体等による検討のサポート	10	
	JASの見直しに係る原案作成件数	FAMICによる原案作成	6	
		事業者団体等による検討のサポート	31	
	JASの普及	説明会の開催	4	
		英文翻訳規格数	6	
各国の有機認証制度の同等性協議に関する調査	審査及び協議国(地域)数	終了事案なし		
林産物に用いる接着剤の同等性能確認	確認数	10		
国際規格に係る業務	ISO国内委員会の開催	2		
	ISOの規格策定及び改正への貢献のために参画しているプロジェクト数	33		
		うち発行済みの規格数	10	
	ISO国際会議への派遣回数	26 回派遣		
Codex国内会議への出席	12 回出席			
JAS登録認証機関等及び登録試験業者等に対する調査等の業務	登録認証機関等に対する調査	登録及び更新調査件数	42	
		(内訳) 登録調査	6	
		(内訳) 更新調査	36	
	登録試験業者等に対する調査	変更調査件数	124	
		登録及び更新調査件数	実績なし	
		変更調査件数	2	
JAS法に基づく立入検査等業務	登録認証機関等に対する立入検査	農林水産大臣への報告件数	77	
		(内訳) JAS法違反の疑い	2	
		(内訳) 資材評価に係る立入検査	2	
		(内訳) 認証業務の確認	73	
		事業所調査	36	
	製品検査施設調査	30		
	立会調査	158		
	登録外国認証機関等に対する検査	農林水産大臣への報告件数	12	
		事業所調査	13	
		製品検査施設調査	3	
登録認証機関等の技術能力確認調査	調査件数	419		
	(内訳) 現地調査	6		
	(内訳) 製品調査	413		
行政部局要請検査	報告件数	要請なし		
JASaff認定制度に基づく認定業務	認証機関又は試験業者の認定	審査件数	6	
	国際相互承認に向けた準備	認定業務の啓発	継続的な啓発	
輸出促進	認定農林水産物・食品輸出促進団体への協力	2023年7月にAPAC国際相互承認メンバーとしての地位を取得		
	登録発行機関及び登録認定機関の登録及びその更新の申請に係る調査	登録及び更新調査件数	1	
		(内訳) 登録調査	1	
		(内訳) 更新調査	実績なし	
	輸出促進法に基づく立入検査等業務	登録認定機関等に対する立入検査	農林水産大臣への報告件数	7
			事業所調査	11
立会調査			3	
行政部局要請検査	報告件数	要請なし		



APAC総会



JASマーク

## 6 食品の安全性に関するリスク管理に資するための有害物質の分析業務

業務名		実績
農林水産省からの緊急命令等業務		命令なし
サーベイランス・モニタリング 年次計画に従った分析業務	依頼分析件数	907
	(内訳) 小麦、大麦及びライ麦のかび毒 (内訳) エキナセア中のピロリジジナルカロイド類	892 15
食品安全に係る有害化学物質の 分析能力の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作成した標準作業手順書(SOP)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・LC-MS/MSによるニバレノール配糖体分析標準作業書(小麦、大麦)</li> <li>・LC-MS/MSによるかび毒一斉分析標準作業書(スクリーニング)(ハトムギ、ソバ中のフザリウム毒素、アフラトキシン類、オクラトキシンA)</li> <li>・LC-MS/MSによるキク科植物等中のピロリジジナルカロイド類分析標準作業書</li> <li>・GC-MS/MSによる乳児用調製乳中の2-/3-MCPD脂肪酸エステル類、グリシドール脂肪酸エステル類及び2-/3-MCPD分析標準作業書</li> <li>・GC-MSによる飴菓子中のアクリルアミド分析標準作業書</li> <li>・GC-MSによるかつお節中のDP、OPP分析標準作業書</li> </ul> </li> <li>○SOP作成の取組を農林水産省に報告した危害要因                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポテト系スナック菓子中のアクリルアミド</li> </ul> </li> </ul>	7
サーベイランス・モニタリング 確認分析業務	分析実施点数	38
	(内訳) アクリルアミド分析点数	38
ISO/IEC 17025認定の維持(更新審査)		ISO/IEC 17025(2017)認定を維持

### 令和4年度調査研究発表課題概要

#### ○ ハトムギ、ソバ中のアフラトキシン、フザリウム毒素の一斉分析法の妥当性評価

ハトムギ、ソバは、かびの一種であるフザリウムが作る毒素や、発がん性のあるアフラトキシンなどのかび毒に汚染されている場合があります。アフラトキシンを含めたハトムギ、ソバ中のかび毒一斉分析法についてLC-MS/MSによる分析法の妥当性を評価しました。



ハトムギ

#### ○ GC-MS/MSによる乳児用調製乳中の3-MCPD脂肪酸エステル類及びグリシドール脂肪酸エステル類等分析法の性能評価

3-MCPD脂肪酸エステル類及びグリシドール脂肪酸エステル類は、食用油脂の精製工程において意図せず生成する物質で、日本では食品中の濃度の低減に関する取組が進められています。これらの成分について、油脂を含む加工食品の一つである乳児用調製乳を対象に、GC-MS/MSによる分析法の性能を評価しました。



LC-MS/MSによる機器分析



## 7 その他の業務

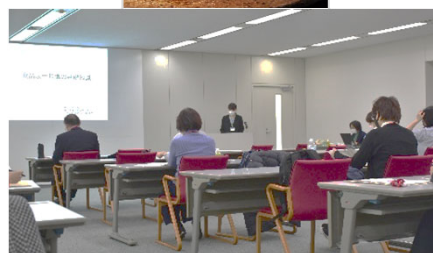
業務名		実績		
カルタヘナ法（※12）関係業務		指示なし		
情報提供業務				
ホームページ等による 情報提供	ホームページ	顧客満足度（※13）	3.9	
		更新回数	209	
		アクセス回数	481,377	
	メールマガジン	顧客満足度（※13）	3.9	
		配信回数	49	
		令和5年3月末登録者数	6,367	
		延べ配信数	310,630	
	広報誌	顧客満足度（※13）	4.6	
		発行回数（毎回5,000部）	4	
事業者等からの 講師派遣依頼等	顧客満足度（※13）	4.4		
	講師派遣	派遣回数	61	
		延べ参加者数	4252	
	委員派遣	派遣回数	74	
	データベース化されたテキスト等の件数	64		
	企業等からの相談件数	4392		
	(内訳) 肥料	3120		
	(内訳) 農薬	108		
	(内訳) 飼料及び飼料添加物	278		
	(内訳) 愛玩動物用飼料	50		
	(内訳) 土壌改良資材	69		
	(内訳) 食品	767		
	講習会の開催	顧客満足度（※13）	4.3	
事業者		技術講習会	7 回開催	
		都道府県職員等	肥料分析実務者研修 消費生活センター職員等ブロック研修 飼料等安全性検査技術研修	1 回開催 7 回開催 2 回開催
検査・分析に係る信頼性の 確保及び業務遂行能力 の継続的向上		分析業務の精度管理	外部技能試験参加回数	11
		技術研修の実施件数	(内訳) 中堅職員技術研修	1
	(内訳) 外国語力強化研修		1	
	(内訳) 業務技術研修		34	
関係機関との連携				
国民生活センターとの連携	依頼による分析件数	0		
	招へい回数	3		
国際技術協力要請	専門家の派遣回数	1		
	海外研修員の受入回数	4		

※12 カルタヘナ法：遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律。

※13 顧客満足度：5段階評価の平均値。



ホームページと広報誌



技術講習会



キルギス国研修生

